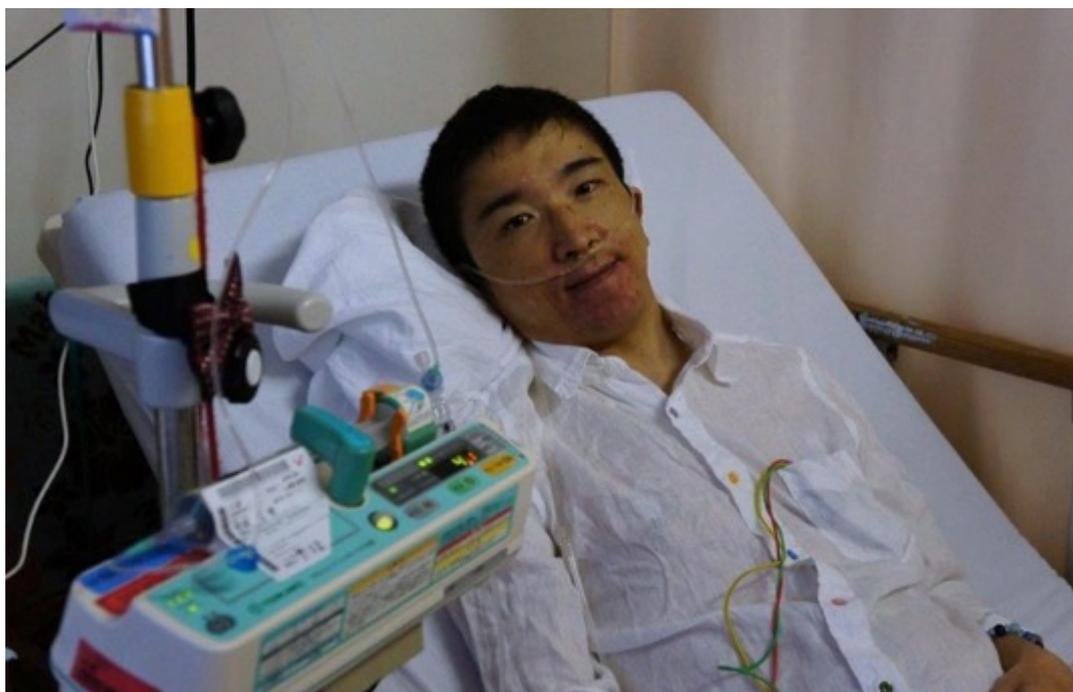


「宮城篤さんを救う会」

50万人に一人という難病治療のため アメリカでの心臓移植実現に向け寄付を受付

「宮城 篤さんを救う会」(代表 田淵 輝彦)は、日本では50万人にひとりと言われる難病「拘束型心筋症」である宮城 篤さんのアメリカでの心臓移植の手術のために、その費用約1億4千万円を目標とした募金を受け付けています。



▼今日までの背景

宮城篤さんは、幼少期より心臓病という診断がくだされていたものの、運動会などの激しい運動を避けながら日常生活を過ごしてこられました。

2003年になって、拘束型の心筋症だと診断され、入退院を繰り返しながらも40年という月日を過ごしてきましたが、2016年から容態が悪化し、もはや心臓移植でしか助からない診断をされました。

▼渡米、そして移植手術という選択

心臓の状況が渡航に耐えられることが必須となるため、募金活動自体は始まったばかりであるものの、日米の主治医のご好意により篤さんご本人は8月上旬に渡航し、現在は移植に向けた様々な検査を繰り返しています。

渡航費と事前検査費用はご家族がご負担された一方で、移植手術費と術後の滞在治療費だけでも膨大な金額となり、その負担をご家族だけのものとしないうために

も、友人たちが中心となって「宮城篤さんを救う会」が発足。ホームページのトップには、宮城さんが暮らす藤沢市長からの応援メッセージも掲載された。

現在、週末を中心に宮城さんのお住まいのエリアを中心とした駅前にて街灯募金活動を行うほか、金融機関を通しての振込みやクレジットカードを利用した募金でも受付を開始、海外事例のことも考えて、国内外に広く呼びかけを行っています。

尚、「宮城篤さんを救う会」では、チラシを置いてくれる飲食店やショップ、同じく募金箱の設置を管理してくれるショップ、並びに、救う会の一員として募金活動をはじめとする活動に、少しでも協力可能な人材を広く募集しています。

▼参考：拘束型心筋症とは

心室の筋肉が硬く広がりにくいいため、心不全としての症状をきたすとされている。左心室が小さいため人工心臓を用いることも難しく、また、日本国内では50万人に一人と言われ、原因不明の難病に指定されている。

有効性が確立された薬剤はなく、難治例では心臓移植の適応となるが、国内では臓器移植提供者の数も少ないため、海外での治療が必要とされる。

また、小児での予後が不良であることが多いため、本件のように成人の年齢まで生存していることも大変稀な事例と言える。

▼お振込み口座：

金融機関名	支店名	種類	口座番号	口座名義
みずほ銀行	藤沢支店 (377)	普通	4 0 0 6 1 1 6	ミヤギアツシサンヨスクウカイ
横浜銀行	湘南台支店 (625)	普通	6 1 3 1 8 8 8	ミヤギアツシサンヨスクウカイ
スルガ銀行	湘南台支店 (303)	普通	3 5 4 7 7 7 3	ミヤギアツシサンヨスクウカイ
かながわ信用金庫	藤沢営業部 (043)	普通	2 1 5 9 9 3 1	ミヤギアツシサンヨスクウカイ
ゆうちょ銀行	記号 10920		1 1 5 5 1 3 1 1	ミヤギアツシサンヨスクウカイ

■本件に関するお問い合わせ先

団体名： 宮城篤さんを救う会
 担当者名： 田淵 輝彦/ 柳澤 円
 TEL： 0 4 5 - 4 3 2 - 6 0 2 5
 Email： atsushi55la@gmail.com
 ウェブサイト： <http://www.atsushi-support.com/>
 Facebook： <https://www.facebook.com/atsushi55LA/>
 Twitter： [@atsushi55LA](https://twitter.com/atsushi55LA)

活動の様子：



藤沢市長からのメッセージ



「宮城篤さんを救う会」へ寄せて

難病と闘う宮城篤さんを救う会の皆様の活動に深く敬意を表します。
皆様の熱い思いが「人の和」により繋がり、多くの人の心に届き、活動が実を結ぶことを願っております。
篤さんの手術の実現と、一日も早い回復を心からお祈り申し上げます。

藤沢市長 鈴木恒夫